

オーストラリア・シドニーを訪れて

～十五周年社員研修旅行より～

櫻井 高志

スピーシア創立十五年を記念し、今年は海外を目的地に選定しました。行先は赤道を越え南半球へ、オーストラリアはシドニーです。六月末に四泊五日と少々長めの旅程で訪れました。移動時間は名古屋から乗り継ぎを含め飛行機で十時間余り。タイトなスケジュールではありませんでしたが、ここはスピーシア、せきたてられながらも、シドニーのまちを目から、口から、そして肌を通して、じつくりと堪能してきました。ここでは、そのシドニーで見て、感じたまちの様子を報告します。



シドニーの基礎情報

オーストラリア・サウスウェールズ州の州都であるシドニー。位置はオーストラリア大陸の南西沿岸、南緯三十四度・東経百五十一度。時差はプラス一時間。市の人口は約四百万人（オーストラリア全体では約二千万人）、オーストラリア最大、最古の都市であり、世界三大美港を抱える湾岸都市でもある。その歴史は一七七〇年にイギリスのキャプテン・クックがオーストラリア大陸を発見し、シドニーに上陸、ここを拠点に開拓をはじめたのが、シドニー、オーストラリアの始まりである（アボリジニーなど先住民は既にいた）。

近年では、世界の国々で海外旅行行先ランキング上位に位置しており、世界中から観光客が訪れる国際的な観光都市となっている。日本からも当然多くの観光客が訪れている。ちなみに名古屋市の友好姉妹都市でもある。

今回の滞在中はシドニーの市街地を中心に回った。

シドニーの街並み

シドニーの市街地は、複雑に入り組んだ湾内の岬の上に形成され、商業施設を中心とした高層ビル群が所狭しと建っている。この市街地は、非常にコンパクトに造られていて、南北約三キロメートル、東西約一キロメートル程度の徒歩でも十分に対応できるスケールである。地元交通に不慣れな観光客にもやさしいまちである。

市街地を歩いて印象的だったのは、シドニータワー（南半球最高三百五メートル）など近代的なビルに混じって、まちの所々に十八〜十九世紀のイギリス植民地時代に建てられた歴史的な建築が残されていることだ。さらに、それらは単なる見学施設にとどまることなく、博物館など建設当初から今も変わらず利用されているものや、外観はそのままに内装を変えてホテルやショッピングセンターへと再利用されているものなどその活用にも力が入れている。オーストラリアでは、こういった古い建築などを積極的に保全・活用しており、重要な観光資源



歴史的な街並みの残るロックス地区では週末にフリーマーケットが開かれる。観光客をはじめ結構多くの人でにぎわっていた。



大英帝国を思い起こさせる砂岩建築物。このような歴史的な建物が都心に点在し、今も使われている。これはショッピングセンター。

として、またまちの景観資源として魅力を向上させている。

特に、ロックスという地区は、シドニー開拓の拠点として入植当時に労働者が住んでいた場所であり、最も歴史が古い。ここでは一九七〇年以降、街並みが整備され、当時の住宅や倉庫の修復・復元が施され、今はギャラリーやみやげ物屋などとして利用され、観光名所となっている。

自然と調和したまち

湾岸にまちが形成されているシドニーではまちづくりにより、海からの視点や緑をうまく取り入れ、自然との調和を図っている。

シドニー市街のビル群は、海からの眺めも美しく、観光コースとしても人気の定番メニューとなっている。実際に見る

と全体として高さの調整が図られていて、海からの景観を意識して造られていることがわかる。有名なオペラハウスも海から見たほうが美しい。

都心に隣接するダーリングハーバーという港ではウォーターフロントの開発が進められ、ショッピングセンターやレストラン、博物館など多種多様な施設が港を囲むように立ち並んでいるのだが、どの建物も海側を正面にしており、海と一体となった開放感がある。ここは市民や観光客の憩いの場となっており、ストリートパフォーマンスなども行われていた。

また、郊外に広がる住宅地も、家々の屋根色が統一されるなど、緑や海の自然に溶け込むような美しさがあり、自然との調和が図られている。飛行機の窓から眺めるとその美しさがよく分かる。

オーストラリア、シドニーは様々な調査でも「住みたい」場所ランキングの上



言わずと知れたオペラハウス。国を代表する建築物として世界中で知られている。さて質問、日本を代表する建築物は？



シドニーのまちは海の青、空の青によく映える。ビル群は全体としてもデザインされており、ひとつの山のような美しさがある。



着陸前に飛行機の窓から見たシドニー郊外の住宅地。水と緑と家が見事にマッチしている。日本にはない美しさである。



都心脇に広がる王立植物園。絵葉書のような美しさの中でくつろぐ人々がいた。きっと至福のくつろぎを味わっているのだろう。



ブリキの人形になり固まっていたストリートパフォーマー。海を背景に様々な楽しいパフォーマンスが人々を和ませていた。

位にあり、実際、世界中からの移民や日本からの移住者も多い。その魅力のひとつがこのような自然との調和から生まれる環境のよさであったり、景観的な美しさでもあるのだろう。シドニーというまちは滞在が長ければ長いほど、よさがわかるまちだと思う。